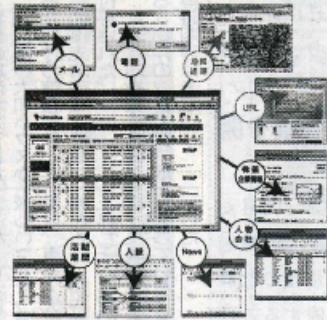


ビル経営研究所発行の「週刊ビル経営」7月6日号の4面に、アルテマブルーを取り上げていただきました。

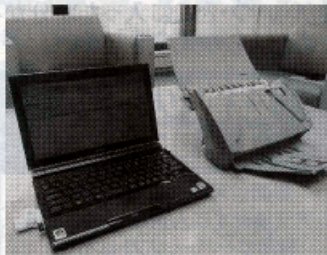
新ビジネススタイル提案 名刺情報 データ管理

業務の効率化は、すべての企業にとつての課題といえる。その方法は多種多様に存在するが、名刺交換をした相手の情報を社内で一元管理することができれば、個人だけではなく全社的に人脈活用の効率化を図ることができる。



▲「アルテマブルー」のサービス一覧

サービス「アルテマブルー」は、名刺情報をデジタル化しネットワーク上で一元管理、全社的に情報を共有することのできるシステムである。アルテマブルーは平成20年6月のサービス開始から、業種・業態・規模を問わず採用件数を伸ばし、現在までに200社以上の採用実績を有している。



▲スキャナで簡単にデータ化

このサービスの仕組みとしては、まず名刺を専用スキャナに取り込んで登録情報が一致の場合、取り込んだ名刺情報は別のオペレーターが自動認識でデータ化され、一度同社のデータベースに送られる。その後、データの精度を向上させるために、全国約1000名のオペレーターが手作業で登録作業を行う。同社は独自の技術を用いて名刺の情報をネットワーク上で細分化。実際にオペレーターが目にするものは名刺の中の氏名や役職など一部に限られるに当たって特別なアプリケーションは必要とせず、ブラウザさえあれば閲覧することができる。他にも、キーボードを使用せずワンクリックでメール送信やIP

名刺情報を整理共有 訪問回数等も表示可能

企業を経営する上で、人脈ネットワークの活用はなくてはならない名刺の管理。一般的に名刺の管理といえば、個人がファイルなどで保有し必要な時に必要な名刺を取り出して使用する。例えば営業職などでは名刺は重要な営業ツールとなるわけだが、従来までの個人単位の名刺管理では、社内での営業相手が重複してしまったり、退社した社員の所有していた名刺の所在を把握できない恐れがある。名刺管理は個人情報の保護や、人脈の確保の観点から非常に重要なのである。

独自技術でデータ細分化 個人情報情報の漏えいを防ぐ

「データ化した名刺情報を全社で共有する」といっても、適切な閲覧規則があれば組織に公開・非公開を指定することに害をたらず恐れがなくなる。

イーシステム

「データ化した名刺情報を全社で共有する」といっても、適切な閲覧規則があれば組織に公開・非公開を指定することに害をたらず恐れがなくなる。

名刺1枚70円でデータ登録

料金は初期登録料金が10万円、1人あたりの月額利用料金がスタンダードプランで2500円となっています。また、名刺のデータ化は1枚あたり70円、利用者自身で行う場合は無料となっています。